

研究・調査報告書

報告書番号	担当
282	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prospective study of alcohol consumption quantity and frequency and cancer-specific mortality in the US population. アメリカにおける飲酒量と飲酒頻度別に見たがん死亡率に関するコホート研究	
執筆者	
Breslow RA, Chen CM, Graubard BI, Mukamal KJ	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2011 Nov 1;174(9):1044-53.	
キーワード	
飲酒量、飲酒頻度、コホート研究、食事、食習慣、がん、リスクファクター	
要 旨	
<p>目的： 1988年、1990年、1991年、1997-2004年の National Health Interview Survey から得られた計 323,354 名のデータを解析し、飲酒量と飲酒頻度とがん死亡率の関係を前向きに調べた。</p> <p>方法： 2006年までに 8,362 名ががんで亡くなった。コックス比例ハザード回帰分析を用いて相対危険度(RR)を算出した。</p> <p>結果： 現在飲酒者は、すべての部位のがんで、男性では飲酒量が多いほど (1杯/日に比べて 3杯/日では) がんのリスクが高く (RR=1.24, 95%CI 1.09-1.41, P for linear trend=0.001)、女性では飲酒頻度が高いほど (1日/週以下に比べて 3日/日以上では) がんのリスクが高かった (RR=1.32, 95%CI 1.13-1.55, P trend<0.001)。肺がん死亡率は同様の傾向であったが、タバコを吸ったことがない集団では差はなかった。大腸がん死亡率は、女性では、飲酒量が多いほどリスクが高かった (RR=1.93, 95%CI 1.17-3.18, P trend=0.03)。飲酒頻度が多いほど、前立腺がんのリスクが高く (RR=1.55, 95%CI 1.01-2.38, P for quadratic effect=0.03)、乳がんのリスクが高い傾向があった (RR=1.44, 95%CI 0.96-2.17, P trend=0.06)。</p> <p>結論： 飲酒とがん死亡率に関する疫学研究においては、飲酒量と飲酒頻度は分けて考える必要がある。</p>	